

2019年6月30日(日)／説教者：座間味宗治

説教：じーんちゅぬうんじ わしらん「土地も人の恩を忘れない」

聖書：マタイによる福音書20:1～9

夏の味覚の風物詩と知られているのがゴーヤーである。ゴーヤーちゃんぷるーは夏の食卓を飾る食材として知名度が高い。沖縄在住の外国人や観光客もゴーヤーを喜んで賞味している。ゴーヤーの苦みは精力剤として定評がある。

日々の暮らしが安定し、物余り現象の言葉が流行語化するほどに我々の日常生活は潤った。つまり豊かになり過ぎた、“ユーシジティ”の状態である。やがて人々は感謝の気持ち忘れ更なる物欲しさの為に衝動的行動に走ってしまう。少子高齢化の現在、農業を営む人の大半が高齢者である。暑い夏の日差しを全身に浴びタオルで汗を拭きながらせかせと働いている。高齢者の懸命な働きに対して土地は無言のままで豊かな実をつけている。感謝です。創世記(3:17)の中で神はアダムとエバに言った。“あなた方は約束を破ったからこれから後あなた方は一生苦しんで地から食べ物をとる”アダムとエバは二人で土地を耕して生活した。これが人間と土のかかわりはじめである。

ところがマタイ伝(20:1-9)の記者はブドウ園の労働者の例えを次のように語りました。一日一デナリオンの約束で農場に送った。早朝、9時、12時、3時、そして5時。勤務時間に関係なく平等に一デナリを支払う約束をした。一日中働いた人が雇い主に不満を申し出た。「我々は早朝から現在まで働いてきたのにどうして、この人たちと同じなのですか」雇い主は答えた、約束した通りのことである。人間の心理は常に変化し高級志向で、他人よりは良い物、高い物、大きい物を好む。約束は守らねばならない。

現代社会に目を向けてみると、約束事は単なる約束で守られていない。政府は沖縄県民の負担軽減と県民の心に寄り添うと公約宣言している。しかし逆に自然を破壊し農地や貴重な水産資源までも破滅させてしまっている。特に農地を奪われてしまうと自給自足の道が断たれ精神的不安が増すばかりであろう。アダムとエバは神との約束を破り不安状態で土を耕す生活を始める。政府も沖縄県民の心に寄り添うとの約束を守る事を実行していない。農地が縮小されると農業従事者は益々不安状態に陥ってしまう。与えられた小さな農耕地でも安心して営むことが出来るなら、労働者も安心して農耕に励むことが出来るでしょう。半農半漁で自給自足で平和であった沖縄が74年前の大戦で苦痛な思いを余儀なくされた。新しい時代に希望の持てる平和な沖縄であることを祈りたい。(座間味宗治)